平成２９年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　大里南　　小学校の結果分析と今後の取組について

　文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成２９年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。
　この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
　学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
　なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習
　状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

主として「知識」に関する問題（Ａ）	主として「活用」に関する問題（Ｂ）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ）の結果

本年度の結果	国語Ａ		国語Ｂ		算数Ａ		算数Ｂ	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

⑵　本校の学力調査結果の分析

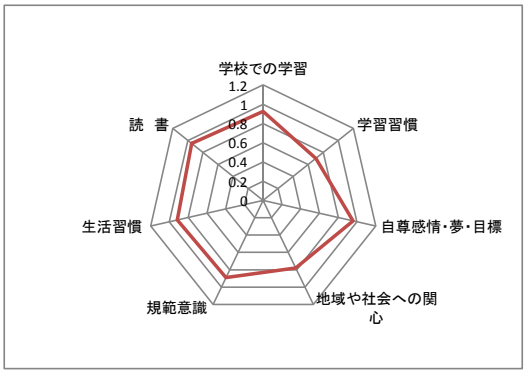
国語Ａ	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、漢字を正しく読む問題など、正答率が全国平均を上回っている問題も多かった。 ・全体的に書く力を問う問題の正答率が低く、書く習慣を日常的	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	ことわざの意味を理解し自分の表現に用いる問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	手紙の後付けに必要なものを適切に選ぶ問題の正答率が低かった。	

国語Ｂ	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回った。特に、記述式の問題の正答率が低く、書くことに対する苦手意識を払拭していく取組を行っていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ必要な内容を整理して書く問題の正答率が低かった。	

算数Ａ	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、基礎的な計算問題や商を分数で表す問題などは、正答率が全国平均を上回っていた。 ・任意単位による測定の理解等の問題の正答率が低く、理科など	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	1より小さい小数をかける問題場面を理解し、数量の関係を数値直線に表す問題の正答率が低かった。	

算数Ｂ	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、量と測定領域と図形領域の問題は、正答率が全国平均を上回っていた。 ・全体的に記述式の問題の正答率が低く、無解答率が高かった。通常の学習でも、書く問題にも粘り強く取り組むようにする必要	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断する問題の正答率は高かった。	
	努力が必要な問題	二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題の正答率が低かった。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・普段１時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均よりかなり低く、自分で計画して勉強している児童の割合も低かった。学校の宿題のみの家庭学習をしている児童が多く、家庭学習の絶対量が少ない実態を把握することができた。宿題以外の家庭学習に積極的に取り組ませる必要がある。
・地域や社会に関心を持ち、行事に参加している児童が少ないが、少しずつ増えてきている。
・将来の夢や希望を持っている児童は確実に増えており、全国とほぼ同レベルになってきた。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

○　１時間の授業の中に、【個人思考：自分の考えを持つ⇒考えを表現し伝える⇒集団思考：話合いで考えを深める】活動を多く設定する取組を全教員で実践する。また、算数科の力を高めるために、「子どもの考える力が育ち、学力が確実に身に付く算数科学習指導法の研究」の研究実践に全職員で取り組む。特に、話し合い活動や学習後の振り返りについて指導を充実させ、考える力や書く力を育てる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○　学力向上推進委員会による児童の学習習慣<学習用具の共通理解・学習の取り組み方(学習態度・ノート指導・発表の仕方等)>の定着を図る。
○　自主的に工夫して取り組んだ児童の自主学習の例を紹介し、「家庭学習マイスター」への応募への推進を図る。
○３年生以上は、宿題の他に音読・読書・家庭学習チャレンジハンドブック等自分で計画して１日６０分以上勉強することを、家庭と連携して推進する。